佳作（高学年の部）

パワーをくれるおばあちゃん

奈良県　大和高田市立高田小学校 五年
赤阪（あかさか）　凌子（りょうこ）

目をつむって家の中を歩いてみた。こわくてなかなか前に進めない。こんな不安な毎日を、わたしのおばあちゃんは送っています。

それはなぜかというと、おばあちゃんは二十四年前に病気で全然目が見えなくなったからです。見えないことが分からなかった小さいころのわたしは、おばあちゃんに絵本をわたして、

「読んで～読んで～。」

と言って、こまらせていたそうです。

わたしは、

「おばあちゃんは長い間、何も見えなくて、ものすごくつらいんやろなぁ。」

と思って悲しくなります。

そして、体のあちこちがいたくなったり、熱が出る病気なので、ほとんどねています。

おまけに最近、耳が聞こえにくくなってきているので、お母さんとわたしは大変なことだと思っていました。

けれど、おばあちゃんは、

「見えへん、聞こえへんになったらヘレン・ケラーみたいやなぁ。もし聞こえへんようになったら、せ中に字書いて会話してや～。」と笑いながら話して、どんな時でも笑いに変える強いおばあちゃんです。

おばあちゃんは、もしいっしゅんだけでも目が見えるようになったら、自分やわたしのお母さんの顔よりも、わたしの顔が見たいと言ってくれます。わたしは顔以外に一〇〇点のテストや、習字の作品とかも見てもらいたいし、参観日や運動会、音楽会にも来てほしいです。でも、お医者さんから、

「もう見えるようにならないでしょう」

と言われたそうなので、だからもう、

「もし見えたら…。」

って想像しないようにしました。

ただ、

「おばあちゃんといっしょに旅行出来たらいいなぁ。」

と思って、おばあちゃんをさそってみても、

「きれいな景色も、おいしそうな料理も見えへんし、あちこちから聞こえる雑音でつかれるから家に居てる方がえぇわ。凌子とお母ちゃんにもめいわくかけるしなぁ。」

と言います。もし、わたしがおばあちゃんの立場だったら同じ気持ちだと思ってかわいそうに思いました。

おばあちゃんは、わたしが二十才になるまではがんばって生きてくれるそうです。それでも十年しか無いのでさびしいです。

わたしのすがたは見えなくても、心の中はよく見てくれていて、すごくたよりになるし、見えなくてしんどい体でも一生けん命生きているおばあちゃん。そんなおばあちゃんが大好きです。もし耳が聞こえなくなってしまっても、「あ・り・が・と・う。」とせ中に書き続けて感謝の気持ちを伝えようと思っています。